

下市・栃原地区「らくらく農法」

柿農家の就労改革

柿の葉を生産 運搬車の改良



プラチナ大賞最終審査進出を発表する杉本町長
=15日、下市町役場

プラチナ大賞の最終候補

高齢化する農村の維持を目指す下市町栃原地区の産・官・学良プロジェクト「らくらく農法」が、将来の社会モデルを表彰する「第2回プラチナ大賞」(プラチナ構想ネットワーク)を主催し、最終審査に残った。柿農家の就労改革に取り組み、プラス10年働ける畑を目指す。杉本龍昭町長が22日、東京都千代田区の都市センターホテルでプレゼンテーションを行う。

東京でプレゼンへ

下市町栃原地区(95世帯、約770人)は、約半数が柿の専業農家。高齢化し、丘陵地帯に広がる柿畑での作業に限界と不安を感じていたという。平成23年秋から、奈良女子大学や農業総合センターと「らくらく農法プロジェクト」をスタートし、柿の葉を生産への転換や電動運搬車の開発が進んだ。電動運搬車は国立奈良工業高等専門学校や大和高田市の農工機メーカーが技術協力。住民の意見を取り入れ、傾斜でも止まる特殊なブレーキを付いたり、バッテリー効率を上げて長時間作業ができ

るよう改良してきた。柿の葉は伝統食の「柿の葉ずし」に使われ、柿の葉商品を扱う農事組合法人(9人)が昨年設立されるなど、地域が活性化。奈良女子大学が考案した本葉は農作業の疲れを癒やす効果があり、多方面の取り組みが農村

の維持につながっている。町も情報発信や財政面で支援。今年は電動一輪車を10台購入予定で、生産者に貸し出してプロジェクトをバツクアップする。昨年10月には、トルコ共和国の研究者が現地を視察した。下市町は「農村の高

齢化は世界的な課題で、下市町のユニバーサルデザイン化の取り組みが注目されている。とアピールする。杉本町長は「葉に、葉しく、プラス10年働ける畑に変える挑戦を発信し、大賞を狙う」と意気込む。プラチナ構想ネットワークは全国約250の自治体や団体が構成。昨年(第1回)は高根県海士町の教育ブランド化が大賞を受賞した。今年約70団体が応募。22日の最終審査はJR東日本の子どもとシニアの交流▽自治医大のヘルスケア支援▽北九州市のグリーンシティ創造など10団体が発表する。

奈良大「全国高校生歴史フォーラム」

研究レポート募集

奈良市山陵町の奈良大学(千田嘉博学長)は、第8回「全国高校生歴史フォーラム」の研究レポートを募集している。「地歴甲子園」の愛称を持ち、平成19年から続く恒例行事。今年から県との共催となり、「学長賞」と「知事賞」を新設する。暗記ではなく、自分で調べて、歴史や地理を学ぶ楽しさを知ってもらおうことが目的。

学長賞、知事賞を新設

奈良の良さや歴史への理解を深めてもらい、将来の「奈良ファアン」のリーダー育成を狙う。「高校生らしい視点」などを審査基準に、千田学長を委員長とする審査員14人が優秀賞を選出。11月22日に奈良大学で研究発表を行い、優秀賞の中から「学長賞」と「知事賞」を選ぶ。応募は研究成果をA(41)900000。

素焼きの棺を復元

奈良・赤田横穴墓群



数示す

奈良市埋蔵文化財調査センターは、同市西大寺赤田町1丁目の赤田横穴墓群(6世紀後半から7世紀中ごろ)で出土した陶棺(素焼きの棺)5基を復元し、同市大安寺西2丁

最も古い6世紀後半の5号墳の陶棺2基は、長さ2.4m、幅0.7m、高さ1.2m。表面には突帯とつたい」と呼ばれる

車とトラック衝突、男性死亡 葛城の国道 15日午後0時50分ごろ、葛城市当麻の国道

165号で、同市南今市の無職、庄田佳右さん(81)の乗用車と、大淀町下淵の会社員、岡田唯志さん(47)のトラックが正面衝突し

民家侵入窃盗 容疑で男逮捕 約44万4千円のほか、財布やクレジットカード

れも丸みのある蓋(ふた)と本体の組み合わせで、蓋には透かし穴が開けられ、本体には円筒形の脚があった。彩色されていた。土器や装身具など副葬品約60点も併せて展示。同センターの安井宣也主任は「6、7世紀の奈良盆地北西部の墓制の特徴を示す資

料。時代による陶棺のスタイルの移り変わりを捉えてほしい」として

開館時間は午前9時から午後5時。入場無料。土・日曜・祝日は休館(19日除く)。

た。庄田さんは橿原市の病院に運ばれたが、約1時間後に死亡が確認された。岡田さんも右足に軽いが、高田署の調べでは、現場は見通しの良い片側1車線のほほ直線道路。庄田さんは帰宅途中、岡田さんは取り先に向かっていた。

職員の人が飲食接待

癒着が常態化していたと指摘した。複数回接